



掲載日：2012年3月14日（水）

掲載紙：日刊ゲンダイ 腰が痛い「屁でもない腰痛が、実は・・・」

発行・編集：日刊ゲンダイ 2012年3月14日発行 第10645号 日刊現代

Dさん（59）は最初、その腰痛を、特に意識していなかったといいます。「ギックリ腰を3回くらいやっています。あのつらさに比べれば、屁でもないほどだったんです」

ところが次第に、腰痛がひどくなっていきましました。しかも、寝ても起きても痛い。これまで「座っていると腰痛がつかいけど、立つと少しマシになる」「風呂に入ると、腰痛が楽になる」などだった



屁でもない腰痛が、実は...

たのに、何をしても痛さが変化しないので、Dさんはもうひとつ、「尿が出にくい」「残尿感がある」というシモの悩みも抱えていました。59歳という年齢から前立腺肥大を疑っていましたが、口に出しにくい悩みのために、病院を受診するのをためらっていました。

しかし、同窓会で久しぶりに会った仲間が「前立腺肥大がつかうて」と口にしてるのを聞き、「よくある病気なんだな。思い切つて受診してみよう」となったのです。結果は、Dさんにとって大変酷いものでした。

前立腺がんで、すでに腰の骨への転移が見

られたのです。前立腺肥大だと思っていた症状は、前立腺がんによるものでした。そして、次第に悪化していった腰痛は、がんの転移が原因だったので、

「とにかく治療に専念するしかない」と妻に宣言したDさんですが、「どうしてもっと早くに検査を受けなかったのだろう」という後悔が、消そうとしても消えないと言いました。

（岩井整形外科内科病院脊椎内視鏡医長・古閑比佐志）

※古閑医長が介護に関する電子書籍を配信中
http://www.digbook.jp/product_info.php/products_id/14234